



# 2024 FUN&RUN! 2-Wheels in SUZUKA CIRCUIT RACING COURSE

23 Nov.  
Sat.

## イベント開催概要・レースレポート

### ■開催概要

- 大会名称 : 2024 FUN & RUN! 2-Wheels IN SUZUKA CIRCUIT RACING COURSE
- 開催場所 : 鈴鹿サーキットフルコース (5.821km)
- 開催日・天候(コース) : 11月23日(土/祝)・曇後晴(ドライ)
- 主催者 : ホンダモビリティランド株式会社 鈴鹿サーキット  
三重県鈴鹿市稲生町7992 <https://www.suzukacircuit.jp>
- 開催クラス:★総参加台数/114台

ROAD STAR I / ROAD STAR EXPERT I	14台
ROAD STAR WARS I	27台
NEO STANDARD<Ninja250 (R)>	16台
NEO STANDARD<YZF-R25>	12台
NEO STANDARD<CBR250R>	13台
NEO STANDARD<G310R>	32台



★レースリザルトはインターネットでご覧いただけます。  
[https://www.suzukacircuit.jp/result\\_s/](https://www.suzukacircuit.jp/result_s/)



★レース写真は、バトルファクトリー様のHPで  
ご購入いただけます。  
<http://www.battle.co.jp/race/top.htm>

※2024年FUN&RUN! 2-Wheelsは、この大会でシリーズ日程を終了いたしました。  
2025年の開催につきましては、別途あらためてご案内いたしますので、引き続きよろしくお願いいたします。





# 2024 FUN&RUN! 2-Wheels

## in SUZUKA CIRCUIT RACING COURSE

**23 Nov.**  
Sat.

### 開催クラス紹介

#### 【NEO STANDARD】

現在、各社から発売されている、手頃な車両価格で最も人気の高い4ストローク250ccマシンによるエントリークラス。カワサキNinja250R、ホンダCBR250R、YZF-R25、BMW G310Rの4車種にクラス分けされています。スプリントレースでありながら、途中ライダー交代またはピットインが必要となります。また、チームエントリーでシリーズ戦として開催し、車両別となったカテゴリーでのチャンピオンが決定するのも人気の理由。

ライダーを1大会2名まで登録することができ、チームとしても楽しめる、経済的なクラスとなっています。

<参加車両例>カワサキNinja250R    ホンダCBR250R    ヤマハYZF-R25    BMW G310R

#### 【ROAD STAR WARS I/II】

一般公道走行が認められている、いわゆる「ナンバー付」車両による、レース形式競技がこのROAD STAR WARSです。「I」と「II」は車両の大きさの違いであり、2ストローク251cc/4ストローク401cc以上の車両がROAD STAR WARS I、2ストローク86cc~250cc/4ストローク100cc~750ccまでの車両がROAD STAR WARS IIとなります。

<参加車両例>ホンダCBR1000RR    ヤマハYZF-R6    ヤマハFZR400    スズキRGV250γ    カワサキZZR1100    等

#### 【ROAD STAR I/II】

ROAD STAR WARS同様、一般公道走行が認められるナンバー付車両による競技です。ROAD STAR WARSとは違い、こちらは全て「タイムアタック形式」の競技となります。入門者から上級者まで幅広く参加できるクラスとなっています。

<参加車両例>ホンダCBR1000RR    ヤマハYZF-R1    トライアンフデイトナ675    ビューエルXB95    スズキTL1000S





# 2024 FUN&RUN! 2-Wheels in SUZUKA CIRCUIT RACING COURSE

23 Nov.  
Sat.

イベント全体概要報告

## “ファンラン”は今回が2024年シーズン最終戦。 フルコースを舞台に熱く激しいバトルが展開された!!

「みんなで走ってバイクをもっと楽しもう!!」をコンセプトに、1999年に始まった「FUN & RUN! 2-Wheels (ファンラン)」。昨年25周年を迎えたこの参加型レースイベントは3月16日(土)に26年目のシーズンがスタートした。8月3日(土)の第2戦に続き、11月23日(土/祝日)に第3戦が行われた。2024年シーズン最終戦の今回はナンバー付き車両によるタイムアタック競技の「ROAD STAR」およびレース競技の「ROAD STAR WARS」の内、大排気量クラスによる「ROAD STAR I / ROAD STAR EXPERT I」と「ROAD STAR WARS I」、さらには昨今の“ファンラン”でもっとも注目を集めるカテゴリーのひとつである「NEO STANDARD」のレースが開催された。

“ファンラン”の魅力はなんと言っても多種多様なバイクと幅広い年齢層のライダーが一堂に会し、一日のうちでたくさんの競技が開催されることだ。「ROAD STAR I / ROAD STAR EXPERT I」と「ROAD STAR WARS I」にはメーカーの威信が掛かった600ccや1000ccのスポーツバイクを中心に、TT-F1レースなどで活躍したHonda VFR750R (RC30)、ストリートファイターやツアラーなど、様々なモデルが参戦。それぞれが魅力的なエキゾーストノートを響かせながら力強い走りを披露した。

また、「NEO STANDARD」のレースも盛り上がった。このカテゴリーは参戦マシンが比較的リーズナブルな価格帯で販売されており、参戦しやすいことに加え、スプリントレースでありながらレース途中でのライダー交代またはピットインが義務付けられており、セミ耐久のように戦える点などに魅力がある。様々な楽しみ方ができるこのカテゴリーは今回が2024年のシリーズチャンピオンが決定する大一番ということで、いつも以上にバトルが白熱した。また、<Ninja250 (R) /YZF-R25>と<CBR250R /G310R>の両レースにエントリーするライダーやチームも見られた。

“ファンラン”は昨シーズンまで「Full Course Special」と題してフルコースを使った大会が年に一回のペースで行われてきた。今シーズンは第2戦と今回の第3戦がフルコース大会として開催されたことが好評で、今回も「フルコースは攻略が難しいけれど楽しい!」「世界の鈴鹿”なのだから、やはりフルコースを走りたい!」といった声が聞かれた、エントリーの皆さんのご要望に応えることができたようだ。

なお、“ファンラン”の原点と言える「ROAD STAR」と「ROAD STAR WARS」は今シーズンが最終開催年で、2025年からは非開催となる。四半世紀以上に渡って愛されてきたこれらのカテゴリーにご参加いただいた皆様に深く感謝申し上げます。



ファンラン”の原点、ROAD STAR。ナンバー付き車両で鈴鹿サーキットレーシングコースを走れるという画期的なクラスも今シーズンが最終開催年となった

### レースレポート-1【タイムアタック】

#### ■ROAD STAR I / ROAD STAR EXPERT I

この日最初に行われたこの競技では、アタック開始1周目に橋本尚樹が2分25秒516をマークしてタイミングボードのトップに。それに岡村一秀の2分29秒237、道中辰彦の2分29秒358と続く。呉島伸光が2分26秒986を記録して橋本と岡村の間に割って入った直後、橋本が自己ベストを更新する2分25秒303をマーク。呉島が2分24秒488を記録してタイミングボードのトップに浮上する。しかし、その直後に太田黒健二が2分22秒551をマークして呉島のそのタイムをも上回ることに成功。内田洋一が2分24秒104をマークして太田黒に続く2番手となる。結局、太田黒の2分22秒551が総合トップタイムとなり、ナンバー付き車両によるこのタイムアタック競技の最終回が無事に終了した。



ROAD STAR I 総合表彰式 (優勝:太田黒健二、2位:呉島伸光、3位:道中辰彦) カテゴリー別表彰式 (C1優勝:太田黒健二、C2優勝:加藤信治、C3優勝:松原耕司)



ROAD STAR EXPERT I 総合表彰式 (優勝:内田洋一、2位:橋本尚樹、3位:岡村一秀) カテゴリー別表彰式 (C1 EXPERT優勝:内田洋一、C2 EXPERT優勝:橋本尚樹)

※表彰式は総合・カテゴリーを合同で実施しており順位は暫定です。また、表彰式に不参加の選手、あるいは代理の場合もあります。正式結果はウェブサイトでご確認ください。

### レースレポート-2【レース形式競技】

#### ROAD STAR WARS I

公式予選では西溜英夫と内田洋一のみが2分21秒台をマーク。ポールポジションスタートの西溜が決勝レースのスタートで出遅れる。ホールショットを奪ったのは3番グリッドスタートの太田黒健二。それに5番グリッドスタートの寺野誠が続く。その寺野がデグナーカーブひとつ目の進入で太田黒をパス。寺野、太田黒、西溜のオーダーでオープニングラップを帰ってくると、寺野は単独トップに。太田黒、清水義之、西溜らがテールtoノーズの状態でも2位の座を争う。集団を抜け出した清水が次第に寺野に接近すると、4周目のシケインでこれをパス。さらに西溜が清水をパスしてトップに立つ。その後も西溜と清水は抜きつ抜かれつバトルを展開したが、西溜がナンバー付き車両によるこのレース競技の最後の総合ウィナーに輝くこととなった。



ROAD STAR WARS I 総合表彰式(優勝:西溜英夫、2位:清水義之、3位:太田黒健二) カテゴリー別表彰式(C1優勝:西溜英夫、C2優勝:金田操、C3優勝:清水義之)



ROAD STAR WARS I スタートグリッド

※表彰式は総合・カテゴリーを合同で実施しており順位は暫定です。また、表彰式に参加しない選手、あるいは代理の場合もあります。正式結果はウェブサイトでご確認ください。

### レースレポート-3【レース形式競技】

#### ■NEO STANDARD<Ninja250 (R) /YZF-R25>

公式予選でトップタイムをマークしたのは開幕戦のYZF-R25クラスを制した鳥居典生。それに前戦のYZF-R25クラスウィナーである松浦光利、そして杉島潤と続いた。決勝レースではポールポジションスタートの鳥居と3番グリッドスタートの杉島が横並び状態で1コーナーへ。杉島がホールショットを奪い、その後に鳥居、2番グリッドスタートの松浦と続く。杉島、松浦、鳥居のオーダーでオープンニングラップを終了。2周目の1コーナー立ち上がりで松浦がオーバーランする。杉島、鳥居、コースアウト後すぐに順位を回復した松浦、細川和彦／本田知英組、山本晃久、西村博貴の6台がトップグループを形成。その集団の中では前回優勝しているため、2回のピットインを課せられている松浦が5周目終了時点でピットに入る。7周目終了時点ではトップグループ5台もピットへ。8周目終了時点で松浦がライドスルーをこなす。次第に単独走行となった鳥居がトップチェッカーを受け、YZF-R25クラスのチャンピオンに。Ninja250を制したのは総合2位の西村。総合7位、Ninja250クラス4位の西良英之がクラスチャンピオンを獲得した。



NEO STANDARD<Ninja250 (R)> (優勝:西村博貴、2位:細川和彦／本田知英、3位:山本晃久)



NEO STANDARD<YZF-R25> (優勝:鳥居典生、2位:杉島潤、3位:山澤英樹)

### レースレポート-4【レース形式競技】

#### ■NEO STANDARD<CBR250R／G310R>

公式予選ではG310Rクラスランキングリーダーの佐々木龍人が2分46秒788という圧倒的なタイムをマークしてポールポジションを獲得。それに中谷亜加音／平野佑果組の中谷が続いた。決勝レースでは佐々木が良いクラッチミートを披露してホールショットをゲット。それに4番グリッドスタートの伊藤翼、3番グリッドスタートの小牧寛由と続く。シケイン進入で伊藤が佐々木のインに飛び込み、伊藤、佐々木、小牧のオーダーでオープニングラップを帰ってくる。次第に佐々木、伊藤、寺田愛基／稗田裕充組はそれぞれ単独走行になるが、再び伊藤が佐々木に接近してこれをパス。その後も伊藤、佐々木、寺田／稗田組の3台がテールtoノーズのバトルを展開する。トップグループでは佐々木が5周目終了時点でピットへ。寺田／稗田組が6周目終了時点で、伊藤が8周目終了時点でそれぞれピットに入る。結局、佐々木がトップチェッカーを受けると同時にG310Rクラスを制し、シリーズチャンピオンにも輝いた。CBR250Rクラスを制したのは総合3位の秀崎隆。総合8位の寺田／稗田組がCBR250Rのクラスチャンピオンに輝いた。



NEO STANDARD<CBR250R> (優勝:秀崎隆、2位:奥田勇人／竹田透、3位:寺田愛基／稗田裕充)



NEO STANDARD<G310R> (優勝:佐々木龍人、2位:伊藤翼、3位:小牧寛由)

※表彰式は総合・カテゴリーを合同で実施しており順位は暫定です。また、表彰式に不参加の選手、あるいは代理の場合もあります。正式結果はウェブサイトでご確認ください。